

「地域と学生のために」

長野大学に自由と民主主義を

私たちは、田中教授の裁判がそのための力になることを願っています。

長野大学・田中教授の裁判を支援する会

ニュース

No. 007

2025.7.30 発行

発行責任者 鳥毛 道夫

連絡先

上田市上田原1142-7

上小労連内 26-2772

9.26 いよいよ証人尋問

原告 田中法博

「公正な審理」を見
届けてください。

長野大学不正問題の
詳細を証人尋問で明らかに

に処分に至った経緯を詳しく
説明したいと考えています。

長野大学の懲戒処分
手続きがずさんであつたことを証言

く証言し、責任の所在を明らかにしたいと考えています。
皆様が想像されている以上に
多くの人物が関与する深刻な
問題であることが、明らかに
なるはずです。

をより良くするための取り組みを継続してまいります。
とりわけ次の三点を重視して
標として、調査・提言活動を続
けていきます。

①大学の透明性向上と不正再発防止策の整備
②健全な組織となるよう
に組織改革の推進

③学生が安心して学べる
教育環境の整備

今後とも変わらぬご支援と
ご注目を賜りますよう、心より
お願い申し上げます。

日時：25年9月26日（金）
場所：長野地方裁判所
(長野市旭町1108)

皆様のご支援を受けながら
進めている田中裁判も丸3年
近くが経過し、大詰めを迎
てきました。皆様には様々な
ご支援を賜り心から感謝申し
上げます。

田中裁判では、長野大学で
発生している不正・不正義を
是正することも重要な目的の
一つです。

重ねて申し上げますが、長
野大学で不正が発生している
事実自体については、被告
(長野大学)も認めています。
そこで原告である私は、こ
れらの不正に関する証拠を提
出するとともに、本件懲戒処
分が「不正を告発した教員へ
の報復・口封じを目的とした
ものである」ことを、今回の
証人尋問で明らかにしたいと
考へています。

その結果、訴訟が始まった
後になって、被告である長野
大学は処分当時には言及して
いなかつた新たな根拠を次々
に主張しています。中には事
実に基づかないものも含まれ
ており、手続自体の不備が浮
き彫りになっています。

原告側はこれらの新主張に
対し、確かな証拠をもつて
ひとつ反論しています。公
的機関とは思えないほど不適
切な処分手続きについても、証
人尋問で詳しく明らかにした
いと考えています。

依然として不誠実

長野大学・上田市

長野大学と上田市に再度の
申し入れを行いました。田中裁判を支援する会は、
地域と大学を考える会と連名
で、長野大学理事長あてに

「田中裁判の審理を受けて長
野大学が解決すべき事項につ
いての申し入れ」、上田市長
あてに「田中裁判の審理を受けて長
野大学で行われた会計不正の
金資解説と社会的責任の履行、
②田中教授をはじめとする教

署名にご協力を

署名提出までにもう一回の拡大をお願いします。

これまで集めた署名を提出する予定です。
田中裁判の勝利判決を求める署名は、現在1322筆まで拡
大しています。私たちは、署名提出までに1500筆を集め、
裁判所はもちろん上田市や長野大学に対しても田中裁判支援
の世論を示したいと考えています。今まで多くの皆さんに
署名にご協力いただきましたが、提出までにもう一回の署
名拡大を進めたいと思います。ご協力をよろしくお願いいた
します。

今後に向けて

本訴訟は、単なる処分取消

し不正な目的による報復措置
であつた疑いを裏付ける録音
データや文書など、多数の証

拠を提出しています。証人尋
問では、これらの証拠をもと
関係者の具体的な行為を詳

証言する予定です。

たとえば、上田市役所の部

悪意（害意）を持つ
た懲戒処分であったこ
とを証言

この裁判は、22年12月、長野
大学で発覚した内部不正を複
数の教員が告発した教員らを
逆に懲戒処分したことの適法
性を問うものです。

いよいよ25年9月26日に長
野地方裁判所にて、公開の証
人尋問が行われることで、そ
の後は結審に向かうことにな
ります。当口はどうなたでも傍
聴可能です。席数に限りがあ
りますが、ぜひ、多くの市民
の皆様に傍聴にお越しいただ
きますようお願い申し上げま
す。

本件裁判では、当該懲戒処
分が公正さを欠き、私怨ない
し不正な目的による報復措置
であつた疑いを裏付ける録音
データや文書など、多数の証

拠を提出しています。証人尋
問では、これらの証拠をもと
関係者の具体的な行為を詳

員への不当処分の撤回と謝罪、
③田中教授へ行った労働基準法違反の不当処分の原因究明

と謝罪、

④一連の問題を引き起こした大学のガバナンスの改善と市民への説明（大学あて）、

⑤上田市幹部が田中氏に対し、不正会計等の調査をやめよう迫った発言の撤回と謝罪（上田市あて）などです。

この申し入れに対し、長野大学は、現在に至るまで回答せず、無視を続けています。上田市は、「申し入れされた事項については、係争中の状況下において市として見解を述べる立場にありません。市は設立者として、長野大学に對して中期目標の策定や評価を通じて大学の運営を支援してまいります。」という形式

的な回答を行いました（4月21日付）。

支援の力が
じわじわと増
えています。

大学は庶民か
ら常に尊敬の
目で見てこら
れたものです
し、行政は、
市民のために
汗水流してい
るところと見つれているのが

普通だからです。そして、実際には大学には尊敬するに値する方がたくさんいらっしゃいますし、行政職員の大多数は市民のために日夜大変な努力をされているからです。

市民のために日夜大変な努力をされているからです。

信してもらえたままでが大変なんです。

裁判も漸く証人尋問にたどり着きました。判決の日も視野に入ってきたように思いました。

「長野大学に何があったのか」が白日の下に晒される日が近付いています。

尊敬するに値する多くの大学の教職員の皆さんにとって、心の中でホッとしていただける日だと思います。

違法・不当処分が平然と行われるような大学で、どうして学生たちが明るくまともに学べるのか心配でしたが、それも解消されるのではないかと思います。

とは言え、それらは「大学が心から反省する」ことが前提になります。

尊敬される大学になるには、もう少しの間「市民の目」が光っていなければならぬかも知れません。

支援する会では、この間も地域の各団体との連携を進めてきました。

4月には上田市職員労働組合を訪問し、執行部の皆さんと懇談を行いました。田中裁判の経過をはじめ、長野大学や上田市の現状について、幅広く情報交換を行いました。

5月1日の上小地区マーチーでは、田中教授がJMITUの一員として発言し田中裁判の支援を訴えました。その上で、会場内で署名活動を行い、66筆の署名を集めました。今後も地域の労働組合運動や教育運動などと幅広く連携しながら、裁判支援の輪を広げていきたいと思います。

活動報告

懇談 上田市職員労働組合と
上小メーデーで発
言と署名行動

支援者の声

普通だからです。そして、実際には大学には尊敬するに値する方がたくさんいらっしゃいますし、行政職員の大多数は市民のために日夜大変な努力をされているからです。

市民のために日夜大変な努力をされているからです。

信してもらえたままでが大変なんです。

裁判も漸く証人尋問にたどり着きました。判決の日も視野に入ってきたように思いました。

「長野大学に何があったのか」が白日の下に晒される日が近付いています。

尊敬するに値する多くの大学の教職員の皆さんにとって、心の中でホッとしていただける日だと思います。

違法・不当処分が平然と行われるような大学で、どうして学生たちが明るくまともに学べるのか心配でしたが、それも解消されるのではないかと思います。

とは言え、それらは「大学が心から反省する」ことが前提になります。

尊敬される大学になるには、もう少しの間「市民の目」が光っていなければならぬかも知れません。

7月29日、証人尋問前にして 大学近くでスタンディング

